

学校の教育目標：やさしく かしく たくま 経営方針：心の宝物が輝く学校



かさはら

令和 3 年度
笠原小学校
学校便り
4 月 24 日号

児童会：新しいリーダーによる新しいスローガンと楽しみにしています

全方向からその子に光を

校長 鈴木 稔朗

こうちょうせんせい、きいてきて。きのうね、1ねんせいのC君がころんじやったの。それでね、血も出たの。だから、わたしとBちゃん、C君をををせわしてあげたよ。そうしたらね、せんせいが、いえにでんわしてくれて、ママにめっちゃめっちゃチュッチュされたよ！

朝、登校する児童を正門か西門で出迎えた後、朝の会から1時間目にかけて、ゆっくりと全教室を巡回するのを習慣にしています。たくさんの元気な「おはようございます！」や明るい笑顔に、心から感謝しつつ、自分も負けずに笑顔や挨拶を返します。

ああ、あの子は素敵な呼びかけができるなあ。おっ、座る姿勢がよくなった、がんばっているな。はきはきと話すようになったなあ、成長したなあ。あれっ、ちょっと顔が曇ってるな、何かあったのかな…。自分なりの気付きが、少しでも児童の笑顔に結びつけば、逆に児童の悲しみや悩みを軽くすることにつながれば。そんな願いを胸に朝の教室を巡ります。

そんなある朝、2年生の教室に入ったとき、Aさんが目をきらきらさせながら、冒頭のように話しかけてくれました。特に「ママにチュッチュされた」ことを伝えてくれたときは、なんとも言えず幸せそうでした。

登校途中、1年生のC君が転んで膝をすりむきました。血も出ていました。それを見て、AさんとBさんは、職員室の担任の所までC君を連れて行きます。手当のために、傷口を洗っていくのにも付き添いました。そうして担任にC君を引き渡すとき、「痛かったのに泣かなくてえらいね」と、お姉さんらしく彼を元気づけました。

その姿を目にしたC君の担任は、AさんとBさんをほめてお礼を伝えると共に、二人の担任にも、喜びとお礼を伝えます。それを聞いた担任は、AさんとBさんをほめ、その事実を両方のお家の方に電話でお伝えしました。学級でも仲間から二人に拍手が送られました。

このエピソードを聞いて、私は心の底から嬉しくなりました。二人の行動に、多くの方向から光が当たったからです。

二人は、とっさの判断でC君に寄り添いました。そうして、職員室へ連れて行って終わりではなく、一定の決着がつくまで、寄り添い続けました。C君が転んだことを目にしたときから、最後に優しい声をかけるまで、実はたくさんの「選択」の機会がありました。その機会を、二人はことごとく、C君に寄り添う方向で、「こうしたほうがよい」という方向で選び取ってくれました。そのことを、C君の担任から、自分たちの担任から、学級の仲間から、お家の方から（今後私から、全校の仲間から）認めてもらいました。このつながりの、どこか一つでも欠けていたら、輪はつながらず、冒頭のAさんの喜びの声を聞くことはできなかったでしょう。

子どもの素敵な言葉や行動と、それを支えた勇気やよい判断、辛抱や譲る心の情報を共有し、学校では児童同士が、職員が、お家や地域では、保護者や地域の皆様が輪になり、あらゆる方向からそれぞれの光を当てる。この温かいつながりがあってこそ児童一人一人の「心の宝物が輝く学校」が実現します。このエピソードは、それが確実に一歩進んだ証です。